

感染症

相双地域感染症発生動向調査週報(2025年第51週)

(令和7年12月15日～令和7年12月21日)

令和7年12月24日

区分	疾 病 名	2025年					2024年合計	2023年合計
		48週	49週	50週	51週	合計		
定点報告	インフルエンザ	65.67	61.00	31.00	26.00	—	—	—
		197	183	93	78	2,452	1,616	2,660
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	2.00	0.67	1.00	1.33	—	—	—
		6	2	3	4	1,128	3,622	2,663
	RSウイルス感染症	—	—	0.50	—	—	—	—
		0	0	1	0	155	309	425
	咽頭結膜熱	—	—	0.50	1.00	—	—	—
		0	0	1	2	78	337	129
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.50	1.00	1.00	3.00	—	—	—
		3	2	2	6	240	657	237
	感染性胃腸炎	—	0.50	1.00	—	—	—	—
		0	1	2	0	430	610	988
	水痘	—	0.50	0.50	—	—	—	—
		0	1	1	0	10	6	1
	手足口病	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	15	952	129
	伝染性紅斑	0.50	—	0.50	—	—	—	—
		1	0	1	0	141	0	8
	突発性発しん	—	—	0.50	1.00	—	—	—
		0	0	1	2	58	182	266
	ヘルパンギーナ	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	4	19	319
	流行性耳下腺炎	—	0.50	—	—	—	—	—
		0	1	0	0	10	13	15
	急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	2	9	13
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	2.00	—	—	—
		0	0	0	2	16	1	3
	クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	5.00	6.00	1.00	1.00	—	—	—
		5	6	1	1	42	16	1
	無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—
		0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ入院	8.00	1.00	3.00	4.00	—	—	—
		8	1	3	4	35	19	10
	新型コロナウイルス感染症(入院)	—	—	1.00	2.00	—	—	—
		0	0	1	2	56	120	19
	急性呼吸器感染症(ARI)	129.33	136.67	89.67	90.00	—	—	—
		388	410	269	270	8,589	—	—
全数報告	結核	0	1	0	0	4	1	2
	つつが虫病	1	0	0	0	2	1	0
	梅毒	0	1	0	1	3	6	6
	百日咳	1	7	1	1	135	0	0

カラー表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

定点把握疾患	インフルエンザと咽頭結膜熱の流行が見られます。
全数把握疾患	梅毒(50代1名)と百日咳(10代1名)の報告がありました。
インフルエンザ	相双地域及び県(県内総数)ともに前週と比較して減少しました。本県における第51週の定点当たり報告は16.31と、4週連続で前週を下回りました。減少傾向が続いているが、B型の増加が見られ、現在も警報は続いています。インフルエンザウイルスに感染すると、38°C以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が現れ、喉の痛み、鼻汁、咳等の症状も見られます。子どもは、まれに急性脳症を発症し、高齢者や免疫が低下している方は肺炎を伴うなど重症になることがあります。ワクチン接種や基本的な感染対策の徹底をお願いします。
新型コロナウイルス感染症	相双地域及び県(県内総数)ともに前週と比較して増加しました。2週連続で増加しています。過去2年の傾向から、今後年末にかけて増加が見込まれるため注意が必要です。インフルエンザと同様、基本的な感染対策の徹底をお願いします。
感染性胃腸炎	ノロウイルスによる感染事例が増えています。相双からロタウイルスによる感染も報告されています。感染性胃腸炎は、秋から冬にかけて流行する感染症で、1～3日程度の潜伏期間の後、嘔吐、下痢、腹痛等の症状が生じます。汚染された食品や、病原体が直接口から入ることで感染することから、トイレの後や、調理・食事の前に、石けんと流水で十分な手指消毒を行いましょう。
結核	本県で3名の報告がありました。報告が続いています。現時点で昨年の報告数を上回っており、高齢者や若年の外国出生者が多くを占めています。外国人労働者を多く雇用する事業主や高齢施設は、既存の感染対策に加え、結核対策としての定期健康診断を実施しましょう。

これから年末年始を迎え、帰省や旅行、会食の機会の増加等で、人の移動や接触の機会が増えることが予想されます。急激な感染拡大を防ぐため、咳エチケットや手洗いの励行、場面に応じたマスクの着用など、基本的な感染対策の継続をお願いします。また、年末年始の期間中は対応できる医療機関が少なくなります。福島県では、夜間や休日に急な病気や怪我でどうすれば良いか迷った時に、対処方法や受診可能な医療機関について相談できる相談電話窓口があります。「#7119」福島県救急電話相談、「#8000」福島県子ども救急電話相談にご相談ください。